**本時について**

（１）本時の目標

・自己の課題に応じた守備の技能ポイントや練習方法がわかり，打球に応じて動き、ねらった方向へ　　ステップを踏みながら一連の動きで送球することができる。（知識及び技能）

・自己やチームに適した課題を見つけ、それに応じた練習方法を選び、状況に応じてどこでアウトを取るのかを判断し、伝えたり確認したりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）

・捕球から送球までをスムーズに行うために互いに見合ったり、練習の補助をしたりして、グループの仲間が互いに上達する教え合いができる。（学びに向かう力・人間性等）

（２）展開（本時８／１２時）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導・援助・評価 |
| 導  入 | １　用具の準備・準備体操・補助運動  ・グループごとに準備、準備体操をする。   |  | | --- | | 【補助運動】  キャッチボール→ゴロ捕球→フライ捕球→２分間キャッチボール |   ２【全体計画会】  ・本時の課題、技術ポイント、練習方法がわかる。  【課題】次の動きを確認し、捕球から送球までをスムーズに行いアウトを取ろう  ３【グループ計画会】  ・個人課題を守備段階表をもとにグループで共有する。  ・今日のケース練習について確認する。 | |  | | --- | | **研究内容（１）**  ②導入で個人課題を見出させる手立て  ・学習カードを活用し前時の振り返りから個人課題を明らかにできているか。 |   ・課題達成のための技術ポイントと練習　方法を確認する。  ・前時の振り返りから、適切な個人課題を設定できているか確認する。  **研究内容（３）**  ②どの子にも満足のいく１時間とするための計画会、中間研究会、反省会  ・計画会（中間研究会）で本時の課題、個人課題を達成させるための技術ポイントが合っているか。  ・ケース練習での動きが理解できているか確認する。  **研究内容（２）**  ②練習方法  ・グループ練習と抽出生徒の練習を使い分け、生徒の課題や姿に応じた練習方法や練習回数を考えているか。  **研究内容（３）**  ①仲間への関わり  ・守備段階表から技術ポイントや練習の視点を理解し、仲間に的確な声かけやアドバイスができているか。  ・生徒の姿と練習方法が合っているか確認する。  ・苦手な生徒がグループの中で上手く練習できていないときは、どこでアウトにするのかを一緒に考えたり、捕球の仕方を確認したりする。  **【評価規準】**  練習や仲間のアドバイスを通して、自分なりのコツや技術ポイントを見つけようとしている。（思考・判断） |
| 展  開 | ４　【前半練習】守備のケース練習  〇グループごとに状況を設定し練習する。  ・どこでアウトを取るかを常に確認し練習を進める。  ・内野の守備練習のみ  ・ノック、または投げ入れで行う  ・それぞれの動きと技能課題を確認しながら行う。  例）１アウト１塁の時、どう守るか  　　２アウト１、２塁の時、どう守るか  ・どこに送球するのか、どう動くのかを声をかけ合い練習する。  ５　【後半練習】変則ルールゲーム、判定会  ○変則ルールゲーム  ・打者一巡で攻守交替　・ピッチャーは味方が行う。  ・得点は　守備時のアウトカウントを得点とする。  ・どのチームもゲームができるように３ゲーム行う  例）①攻：１　守：２　②攻：２　守：３  ③攻：３　守：１  ○チーム練習会  ・ゲームをしていないチームは練習方法を選択して守備練習を行う。  ・打球の捕球から送球までを段階表を用いて点数化する |
| 終  末 | ６　【グループ反省会】  ・仲間の高まり、高まった要因を話す。次時の個人課題やチーム課題の設定  ７　【全体反省会】  ・本時の課題（めざす姿）に根拠（技術ポイント、練習方法等）をつけて自分や仲間、チームの高まりを話す。 | |  | | --- | | 【評価規準】（技能）  ・打球に応じた動きで捕球し、ステップを踏みながらスムーズにねらった方向に送球することができる。 | |